

高坂節三著「中国のエリート校に思う」産経新聞 2009年9月7日朝刊を読む

中国のエリート校に思う

1. 「東京大学合格者 6 名、京都大学合格者 6 名、そのほか一橋大学、東京工業大学などの合格者 8 名」。これは東京都立高校の数字ではなく、視察で訪問した中国・瀋陽にある東北育才高校卒業生の昨年度の数字である。
2. もちろん、中国の高校生にとって日本の大学よりアメリカの大学へ留学を希望する学生が多く、エール大学やプリンストン大学、MIT など有名大学への合格者数は 30 名を数える。
3. フランス、イギリス、シンガポール、オーストラリアなどの有名大学合格者も総勢 17 名、あわせて海外留学生 67 名。もちろん地元の清華大学、北京大学、東北大学など難関 10 大学進学者数は 200 名を超えており、中国有数のエリート校として認識されている。
4. 改革開放(1978 年)以前には必ず見られたロシアへの留学生は育才高校に関する限り、一人も見当たらなかった。
5. 2000 年 8 月にはユネスコ(国連教育科学文化機関)の松浦晃一郎事務局長が訪問、ユネスコと提携した 6 校の世界遺産教育優良校の一つとして指定されている。ちなみに日本にはユネスコ提携のこうした優良校は見当たらない。
6. 全員寮生活で、朝食 6 時、授業は 6 時 50 分から夜の 9 時 50 分まで、昼食時、夕食時と各時限の間の休憩時以外は、すべて授業で埋まっている。テレビも見ることができないというアメリカの大学をまねたような素晴らしいキャンパスで選ばれた学生は目を輝かせて授業に励んでいる。
7. 日本語を専攻している学生たちとの対話集会はすべて日本語で行われ、日本への留学の意思表示や東京大学と京都大学の違い、日本の学生生活の事情への質問などが相次いで行われ、日本留学への期待の高さがうかがわれた。
8. 日本語の授業は週 8 時間あり、日本からきている 3 名の先生の授業が大半を占めている。
9. 聞くところによると、東北育才高校出身の日本への留学生はすでに 3 けたの数字となっており、1000 人以上の留学生が現在も日本に滞在しているという。
10. 優秀な学生を思い切って留学させる。「中国はイデオロギーでやっているんじゃなく、中国民族

はどうしたら生きられるかという問題を根源的に戻してやっている」(司馬遼太郎)という言葉通り、民族が生き延びるためにはエリート教育によるリーダーの育成がなによりも大切であるという考えが背後にあるのではなからうか。

11. 改革開放の主導者、鄧小平^{とうしょうへい}は、「中国の科学水準を高めるために、幾千幾万の学生を海外に派遣すべきである」と述べたという。

12. エリートという言葉の口にするにさえ躑躅^{ちゅうちよ}をおぼえ、格差是正、平等をなによりも大切にする戦後の日本の教育思想だけで日本という国が生き延びていけるであろうか。

優れた指導者が、見えにくくなっている現在、リーダーの育成についても真剣な検討、対策が必要ではないだろうか。

[コメント]

日本の教育に最も欠けるのがエリート教育。リーダー育成の世界で最も欠けるこの分野をどう考えるか。日本の国家経営上の最大課題の一つである。高坂氏のいうように真正面から取り組みたい。

- 2009年9月8日 林明夫記 -